

A close-up photograph of a woman with a warm smile, wearing a colorful headwrap and a red beaded necklace. She is holding a newborn baby wrapped in a red cloth and wearing a yellow headband. The background is plain.

JOICFP ANNUAL REPORT 2012
ジョイセフ年次報告書 2012

2012年度(2012年4月～2013年3月)



途上国の妊産婦と女性を守る

2012年度を振り返って

2012年の世界の動き 一家族計画の巻き返しと期待される日本の役割

2012年は、日本を含む多くの国々で指導者が交代しました。その中において米国のオバマ大統領が11月に再選され、民主党政権が継続されるようになったのは、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ*を推進するジョイセフにとっては朗報でした。また、本年は「家族計画の巻き返し」の記念すべき年であったと言えます。

世界の家族計画のパイオニアである米国のマーガレット・サンガーの家族計画運動開始から100年目であり、彼女や日本の加藤シヅエなどのパイオニアによって昭和27年(1952年)に創立され、現在、世界の172カ国で活動し152加盟協会を持つ家族計画の世界最大のネットワークである国際家族計画連盟(IPPF)の創立60周年の年でもありました。7月には英国のロンドンで「家族計画サミット」が国連・国際機関・政府・NGOが参集して開催され、2020年までに1.2億人の女性たちの家族計画の未充足(アンメット)ニーズを満たすコミットメントを行いました。

しかし、日本のこの分野での国際的な貢献、とりわけ日本からの国連人口基金(UNFPA)やIPPFへの任意拠出金は、依然として伸びていません。平成9年(1997年)から減額の一途をたどっており、40%以上の減少率となっています。日本の「巻き返し」が世界の女性の健康や権利を守るために、世界の関係者から強く期待されています。

東日本大震災被災地支援の2年目—被災者に寄り添って

ジョイセフは、被災地支援事業を自らのミッション(使命)として実施しました。本年度は、特に母親の心のケアへの支援を目的に「リフレッシュ・ママクラス」を福島県の15市町村で実施しました。また、被災者への支援金「ケショ」受給者へのフォローアップ事業として、生まれた赤ちゃんの誕生月にジョイセフから各個人に贈ったバースデーギフトやクリスマスギフトに対して、「自分のことを忘れないでくれる人たちがいるのだ、自分は一人ではないのだ」と、感謝と共に元気づけられたというお手紙を多数いただきました。いまだに31万5000人が仮設住宅に住むことを余儀なくされている状況の中、また故郷のわが家に帰ることができない人々に思いを寄せて、ジョイセフは本年度も引き続き被災者に寄り添った支援協力活動を推進しました。

国内での連携協力の強化

ジョイセフは、2012年度も国内の支援協力ネットワークをさらに強化しました。

ジョイセフの活動の多くは、多数の企業、団体、個人の寄附等によって支えられています。それはジョイセフのミッション「妊産婦と女性の命を救う」を果たすべき生命線となっています。本年度も支援ネットワークを拡大・強化するために、さまざまな試みをいたしました。たとえば、ジョイセフフレンズ(個人でご協力いただいている方々)を中心とした「ジョイセフスポット」(Cafeなどに集まつていただく場の提供)を、まずは大阪で立ち上げました。これにより、個人からグループへの支援拡大が期待されます。また、ホワイトリボン運動への参加やピンキーリングによる女性支援などによる募金活動も引き続き実施しました。ランドセル事業も開始から本年度までに寄贈いただいたランドセルが10万

個を超え、アフガニスタンの農村地域の子どもたちに贈呈され現地の教育環境の改善に役立っています。企業協賛では、「コードマーケティング」として寄附商品等を開発し、社会貢献の新展開を図っています。本年度は支援企業とも同じ目標に向かう「戦略的パートナー」としての連携協力がさらに強化されました。

使命を果たすジョイセフとして

現在でも世界では、年間で28万7000人(1日に約800人)の女性が妊娠や出産に関連する原因で命を落としています。ジョイセフは、公益財団法人移行後2年目に当たる本年度も、ガバナンス、コンプライアンス、透明性のもと、ミッションを果たすべく役職員とともに努力を傾注しました。

本年度も、アジア、アフリカ地域の開発途上国でのリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、家族計画・母子保健、エイズ予防、開発コミュニケーション分野の技術移転やプロジェクト実施、さらには、国内外でのアドボカシー(提言)活動、広報活動、また、企業のCSR(社会的責任)としての活動や市民社会への働きかけ事業、人材養成研修事業、専門家派遣事業、調査研究活動などを、UNFPAやIPPFなどの国連・国際機関、日本政府外務省、独立行政法人国際協力機構(JICA)と連携のもと、さらには、保健会館グループをはじめとする企業・団体、個人等の協力を得て実施してきました。それぞれの活動につきましては、以下にご報告申し上げます。

さらに、ジョイセフは、2012年度、国際協力事業のみならず東日本大震災被災地支援事業の功績も認められ、海外事業では「カンボジア王国友好勲章」、国内事業としては「公益社団法人日本助産師会感謝状」、「ひまわり褒章」、「松村志保子助産師顕彰会感謝状」などを受章しました。

今後とも、ジョイセフの活動へのご理解と、さらなるご支援ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



公益財団法人ジョイセフ
常務理事・事務局長

鈴木良一

*リプロダクティブ・ヘルス(RH)/ライツ：人間の生殖システム、その機能と過程の全ての側面において、単に疾病、障害がないというばかりでなく、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態にあることを指しています。人々が安全で満ち足りた性生活を営むことができ、生殖能力をもち、子どもを産むか産まないか、いつ産むか、何人産むかを決める自由を持つことを意味します。そのための情報と手段を得ることができ、差別、強要、暴力なしに、生殖について決定することが含まれます。

2012年のハイライト

1.

タンザニアで母子保健棟完成



タンザニアのシニヤンガ州にあるレファラル施設ームワルクワ村診療所の母子保健棟の改修が12月に終了しました。2011年のニンド保健センター母子保健棟の改修およびソーラーパネルの設置に続き、2012年は診療所の改修が行われました。

改修されたムワルクワ村の診療所は塗りたての白壁と銀色の屋根！ようやく、女性たちが広くて明るい部屋で出産できるようになりました。また、3万リットルの水タンクも併設し、分娩などに使う水をためることが可能になりました。2012年度は5カ所の診療所に基本的な医療機材も提供しました。

2.

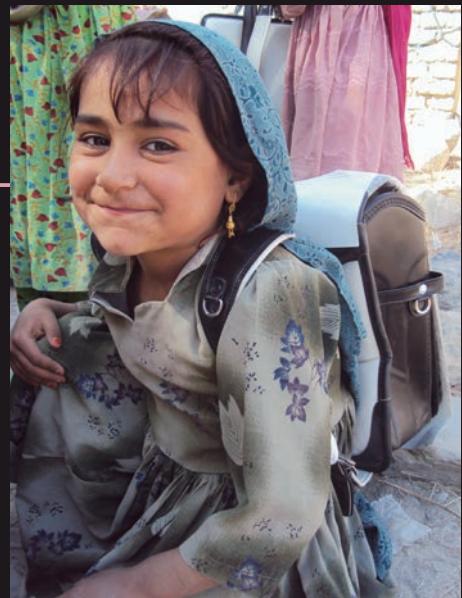
ファースト・バースデー・ギフト&リフレッシュ・ママクラス他 (被災地の妊産婦・女性支援)



リフレッシュ・ママクラスは、構成的グループエンカウンターという“育てるカウンセリング”的手法をベースにした、ママのための心的支援プログラムです。2012年度は福島県内の15市町村のママたちを対象に、計28回のクラスを実施しました。(連携協力：自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門、公益社団法人母子保健推進会議、厚生労働省母子保健課(指導))また、2011年、ケショ(義援金)を支給した被災産婦のうち継続支援を希望し、1749名を対象に、お一人おひとりの出産月に合わせて、1歳のお誕生日祝いをお贈りするファーストバースデーギフト・プロジェクトを実施しました。

3. 想い出のランドセルギフト10万個

ジョイセフがランドセル寄贈事業を始めて9年が経ち、これまでに10万人以上の子どもたちにランドセルを届けてきました。文字の読み書きができる女性ほど自分の健康を守れるだけでなく、生まれてくる子どもも生き延びる確率が高くなると言われているため、ジョイセフはランドセルを使って女の子の就学率を上げることをひとつの目標にしました。



4. 途上国の女性の今を発信する拠点

「ジョイセフスポット」スタート



ジョイセフは1968年の創立以来、東京近郊と海外を中心に広報活動を展開してきましたが、日本国内での支援者が増え、寄せられるリクエストも増えている今、広報活動の日本全国での展開を開始しました。

途上国の妊産婦、女性の情報をより身近に発信してもらえる場所、「ジョイセフスポット」を、ジョイセフレンズという支援者の推薦を通じて全国から募集し、支援者の身近に情報を提供できるようにしています。第1号店はジョイセフレンズが運営する大阪、阿倍野区のレストラン。これから全国展開を目指して、12月14日にオープニング記念イベントを開催しました。

5. IMF / 世銀総会

2012年10月、東京で国際通貨基金(IMF)/世界銀行総会が開催されました。ジョイセフは日本と世界の国際保健分野で活動しているCSOと協力のもと、世銀との共催によって「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」に関する2つのポリシーフォーラムを実施しました。「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」は、ポスト2015(ミレニアム開発目標の達成年である2015年以降)の新たな開発枠組みが議論されている中で、多くの関係者が注目しています。



ジョイセフの活動

国際的な目標でもある-世界中の女性たちが望まない妊娠をすることなく、いつ、何人産むか、産まないかを自ら選択し、安全に子どもを産み、安心して育てられる社会の実現-には、いつでも、どこでも性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)の情報とサービスを受けることができる環境づくりが不可欠です。

ジョイセフはその実現を目指し、開発途上国に暮らす一人ひとりが健康を守る力を身につけ、それをもとに地域全体の潜在能力を引き出し、伸ばしていくけるような支援を行っています。また、女性の命や健康に関する問題の解決は、最終的に家族の健康、地域、社会の開発にもつながると考え、活動しています。

WHY

なぜジョイセフは活動をするのか

開発途上国では、一人ひとりがおかれた状況や環境、社会の価値観、基本的人権へのきめ細かい配慮を欠いた状態が続いているため、女性も、男性も、若者も、自ら考え、行動できるような環境が整っていないところがたくさんあります。

とりわけ女性は男性主導の社会の中で、厳しい状況におかれています。例えば、妊娠や出産について自分で決められないことが多く、望まない妊娠や立て続けの出産が女性たちの身体に大きな負担となっています。また、開発途上国では、保健や医療に関する正しい知識と情報を得る機会が十分でなく、保健システムがいまだに整備されていないため、適切な医療ケアを受けることができない、地域での必要な支援態勢およびネットワークが整っていないなどの現状があります。

世界ではいまだに、1日に約800人の女性が妊娠や出産が原因で命を落としています。そのうち99%が開発途上国に住む女性たちです。この背景にある問題のほとんどが予防可能で早期発見により対応が可能と言われています。



予防と早期発見、ケアを阻む壁～妊産婦が命を落とす3つの遅れ

1. 決断の遅れ

健康に関する情報や知識を得られない、または女性の社会的地位が低く決定権がないために、体調が悪くなっても病院や診療所に行くかどうかの決断ができず、手遅れとなってしまうことがあります。

2. 搬送・アクセスの遅れ

病院や診療所までの距離が遠く徒歩ではたどり着けない、代わりの交通手段もないという地域がたくさんあります。仮に交通機関があっても、料金が払えず利用できることもあります。

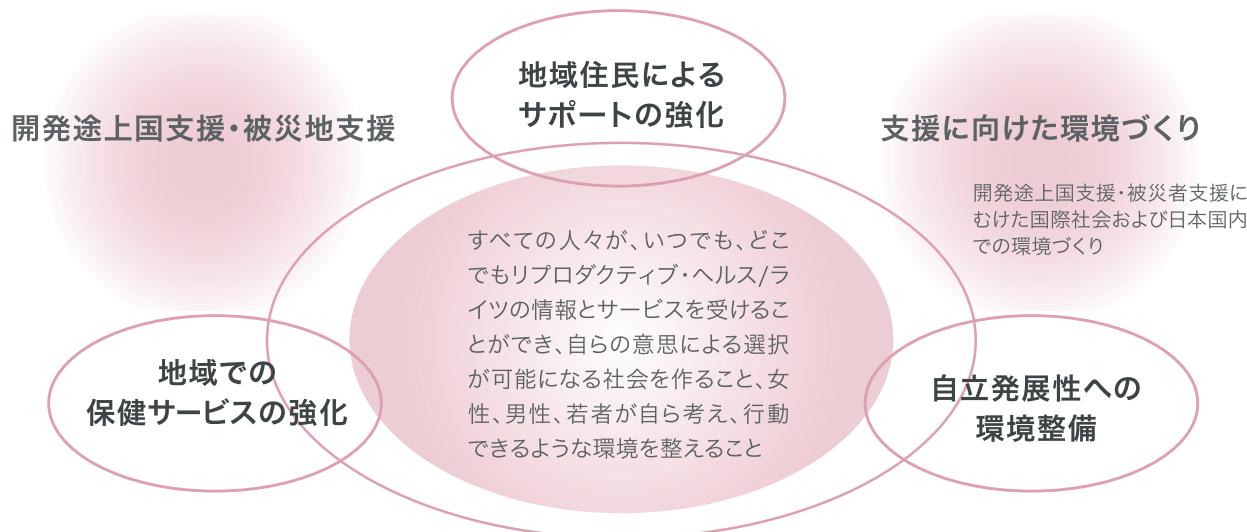
3. 医療ケアの遅れ

病院や診療所に着いても、適切な治療が受けられないことがあります。手術や輸血が必要でも、必要な機材や医薬品が不足していたり、専門の医師がその場にいないこともあります。

ジョイセフは3つの遅れをはじめ、多くのリプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題の背景にある要因の解決に向けて、以下の基本アプローチのもとに活動しています。



ジョイセフが特に重視していることは、「自らの意思により、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの情報とサービスを受けることができる環境づくり」です。住民の積極的参加なくして、地域の発展はないとジョイセフは考え、次の3つの柱をもとに予防と早期発見、医療ケアの改善に向けた活動を展開しています。



ジョイセフは「予防」と「医療ケア」を地域レベルで結ぶことが必要と考えています。地域住民が「自分の健康を自分で守る」ための意識をもち、住民主体の健康づくりを進めるとともに、保健医療サービスへのアクセスの改善とサービスの質の向上に向けて活動しています。

1. 決断の遅れの改善に向けて

住民の健康に関する正しい情報や知識を提供し、一人ひとりが判断する力をつけるため、また、男性の参加を促進し、判断が遅れないよう、女性を取り巻く支援的な環境づくりを目指しています。コミュニティ・ヘルス・ワーカーの育成、地域組織の強化、効果的な広報・教育メディアの開発や啓発活動等を通して実施しています。



2. 搬送・アクセスの遅れの改善に向けて

遠い診療所を少しでも近くするため、ジョイセフはマタニティハウス（出産待機所）の建設、健診を受けやすくするための訪問診療も行っています。また、コミュニティ・ヘルス・ワーカーの協力を得て、出産に向けた緊急時の交通費や搬送支援の確保等を妊婦が夫や家族・地域とともに準備できるように改善を図っています。



3. 医療ケアの遅れの改善に向けて

病院や診療所で「親切で質のよいリプロダクティブ・ヘルスサービス」が提供できるよう、ヘルス・スタッフの能力強化および施設の改善を図る活動を展開しています。また、保健施設の運営やマネジメント、地域診療所の搬送態勢の整備などを行い、医療ケアへの遅れに対応する活動をしています。



A CTIVITIES : 開発途上国支援

ジョイセフは2012年、アフガニスタン・イスラム共和国、ガーナ共和国、ザンビア共和国、タンザニア連合共和国、東ティモール民主共和国、ミャンマー連邦共和国の7カ国での開発プロジェクトの実施および支援を行いました。国連人口基金(UNFPA)、世界銀行や国際家族計画連盟(IPPF)、国際協力機構(JICA)との事業委託と草の根パートナー型による技術協力、外務省NGO連携無償資金協力、国内外の財団による助成金、企業や一般の民間支援等によって実施しました。

タンザニア United Republic of Tanzania

2012年、これまで育成した90人のコミュニティ・ヘルス・ワーカーによる家庭訪問や健康教育活動で、年間で延べ3万6200人の妊産婦・住民に、女性の健康について新しい知識を伝える等、健康を守るための助言を行いました。また、保健施設で働くスタッフへの研修を行い、産前健診、緊急産科・新生児ケアの技術の向上や、接遇の改善を図りました。ムワルクワ診療所の母子保健棟を建設し(2012年12月開所)、水タンク設置を支援するとともに、さらに全6保健施設に基礎的な資機材を供与しました。

地域と保健施設の連携によるリプロダクティブヘルス(RH)サービスの強化

目的 | 対象地域の女性にとって質の高いリプロダクティブヘルス(RH)サービスの強化

実施地域 | シニヤンガ州シニヤンガ・ルーラル県ニンド郡の6区(30カ村)

実施期間 | 2011年3月～2015年3月

対象人口 | 約9万8000人

現地協力団体 | タンザニア家族計画協会(IPPFタンザニア/UMATI)<JICA草の根技術協力事業>

■ 妊産婦・住民のRH知識と意識の向上



コミュニティ・ヘルス・ワーカーが妊婦を訪問し出産に向けた準備状況をフォローアップ

■ 質の高いRHサービスの提供

▼ ヘルス・スタッフ対象の技能研修で実践的な産前健診の技術習得



▲ 住民が建設を開始したムワルクワ診療所母子保健棟の建設を完成まで支援

水へのアクセスがないムワルクワ診療所に、▶
3万リットル入る水タンクを設置



■ 地域住民、コミュニティ・ヘルス・ワーカーとヘルス・スタッフの連携によるサービス利用の促進

コミュニティ・ヘルス・ワーカーとヘルス・スタッフが連携して、妊娠婦・夫婦の分娩計画づくりや、産前健診受診、施設分娩を促しています。また地域リーダーの協力によりヘルス・スタッフが活動しやすい環境づくりを支援しています。

コミュニティ・ヘルス・ワーカーによる家庭訪問や健康教育活動で、年間で延べ3万6200人の妊娠婦・住民に、女性の健康について新しい知識を伝える等、健康を守るための助言を行いました

コミュニティ・ヘルス・ワーカーがジョイセフの富永愛アンバサダーと共に、妊娠の仕組みを村人たちに説明する。



寄附金による活動

タンザニアのシニヤンガ州で実施されているプロジェクトでは、JICA草の根技術協力の資金に加えて、ジョイセフを支援してくださる個人、団体、企業の皆さまからの貴重なご寄附が、活動の要であるプロジェクト地域の保健施設の改善に活用され、地域の人々に大変喜ばれています。2011年には、老朽化していたニンド保健センターが改修され、分娩室が広くなり、ソーラーシステムも設置され、施設内まで水道が引かれるなどの改善が実現しました。2012年には、村の人々の自助努力で建物の土台まで進んでいたものの、資金不足で建設が中断していたムワルクワ村の診療所の母子保健棟の完成と、水タンクの設置に寄附金が活用されました。

2013年は、ホマンゴ村の診療所の母子保健棟への支援を計画しています。ホマンゴ村の診療所の分娩室やお産の後に休むための部屋は、狭くて窓がなく暗いえに、天井裏にコウモリが住み着いてしまい、衛生上も問題があります。診療所に隣接する建物を、安心して健診を受け、出産できる母子保健棟にするための改修と、診療所に水道を引くことを計画し、2015年春の完成を目指しています。



ガーナ

Republic of Ghana

2012年、ジョイセフはガーナで2つのプロジェクトの実施および1件の調査研究の支援を行いました。

イースタン州コウ・イースト郡ヴォルタ川地区 リプロダクティブ・ヘルス向上プロジェクト

目的 | 安全な妊娠・出産に焦点を当てた、質のよいリプロダクティブ・ヘルス(RH)サービスの提供と、住民に対する草の根の啓発活動を通して、対象地域の妊産婦の健康の改善

実施地域 | イースタン州コウ・イースト郡ヴォルタ川地区

実施期間 | 2011年11月～2014年12月 / 対象人口 | 約6万人

現地協力団体 | ガーナ家族計画協会(IPPFガーナ/PPAG)、
ガーナ国家保健サービス<外務省NGO連携無償資金協力事業>



郡病院もなく、住民が十分に保健サービスを受けることが難しい地域で、RHサービス提供のための拠点としてRHセンター(ベッド数最大15床、検査室と手術室を備える)が建設されました。センターを拠点とした準医師、助産師によるRHサービスが開始されました。また、地域住民への啓発活動に向けて、関係者による戦略策定のための参加型ワークショップを実施し、地域住民がRHサービスを利用する上での阻害要因の分析をもとに、効果的な広報・教育メディアの開発や住民への戦略的な啓発活動の推進、コミュニティ・ヘルス・ワーカーの育成が開始されました。

◀ 行動変容のためのコミュニケーション(BCC)戦略策定ワークショップ

ガーナ国HIV母子感染予防にかかる運営能力強化プロジェクト

目的 | ヘルス・スタッフおよびその監督指導者の能力強化と補助教材の制作を通じ、グレーター・アクラ州においてHIVの母子感染予防(PMTCT)サービスの提供体制を強化する。

実施地域 | グレーター・アクラ州 / 実施期間 | 2012年2月～2015年1月

対象人口 | グレーター・アクラ州のヘルス・スタッフ約200名および約14万人の妊産婦とその乳幼児

現地協力団体 | 国家エイズ性感染症対策プログラム、グレーター・アクラ州保健局 <JICA
技術協力プロジェクト>



基礎調査を行い、対象地域のPMTCT(HIVの母子感染予防)サービス提供能力や実施状況、その管理体制や指導能力、また既存の教材や今後必要な教材制作について情報や基本データを収集しました。108名のヘルス・スタッフを対象にPMTCTカウンセラーケーリング研修を実施し、PMTCTサービス実施手順を簡便にまとめたハンドブックの他、効果的な監督指導に関する「チェックリスト」の草案を作成しました。また、現地調査結果に基づき、PMTCTサービスの対象である母親向けの啓発教材として、病院の待合室で利用できるビデオドラマと本、そして母親が携帯できるカードが企画されました。

▲ PMTCTサービス実施ハンドブックの有用性を検証するため、試用している助産師にハンドブックの使用感についてインタビューする郡監督指導者

EMBRACE(コミュニティと施設の連携促進および産前から乳幼児までの継続ケアの実現)実施研究

目的 | 母子保健分野に多大なインパクトがあると考えられる介入研究の実施を通じ、EMBRACEモデルの成果の検証を行う。

実施地域 | ガーナ全土(1年次は主にアクラ、ブロント・アハフォ州、グレーター・アクラ州、アッパー・イースト州)

実施期間 | 2012年6月～2016年1月

カウンターパート団体 | EMBRACE合同研究チーム、日本側研究者(東京大学等)およびガーナ側研究者(ガーナヘルスサービス(GHS)および3カ所のヘルスリサーチセンター)<JICA業務委託(システム科学コンサルタント株式会社との共同)>

日本政府「国際保健政策2011～2015」に提示された「EMBRACE(母子継続ケア: Ensure Mothers and Babies' Regular Access to Care)モデル」を具現化し、母子継続ケアを達成するための有効なパッケージの開発およびエビデンスの構築を目的とする実施研究プロジェクトが開始され、研究実施への支援を行いました。

ザンビア

Republic of Zambia

2012年、これまでに育成した140人のコミュニティ・ヘルス・ワーカー(SMAG)の再研修を実施し、妊娠・出産に関する最新の情報や啓発教育活動の更なる改善を目指し、啓発教育活動を活発化させました。また、若者のコミュニティ・ヘルス・ワーカーを新たに15名育成し、若者への妊娠・出産に関する情報提供や産前・産後健診、施設で出産することの重要性などを伝えるための啓発教育活動を展開しました。また、地域全体で安心して出産できる環境づくりを目指し、村のリーダーや宗教指導者なども巻き込み、コミュニティ・ヘルス・ワーカーとプロジェクト関係者との定期的な会合を行いました。

妊産婦支援プロジェクト

目的 | ザンビア農村地域のプロジェクト地区において、保健施設で介助が受けられる出産を増加させ、より安全な妊娠や出産を推進

実施地域 | コッパーベルト州マサイティ郡フィフレ地区 / 実施期間 | 2011年1月～2013年12月

対象人口 | 1万7000人 / 現地協力団体 | ザンビア家族計画協会(IPPFザンビア/PPAZ)

Cath Kidston、株式会社ファーストリテイリング(ユニクロ)、その他企業・団体・個人の皆さまからの寄附金により実施しました。

■ コミュニティ・ヘルス・ワーカー(SMAG)の育成



▲ SMAGによる妊婦さんへの家庭訪問。産前・産後健診や施設での出産を促進し、マタニティハウスを紹介



▲ SMAGへの再研修

■ コミュニティ・ヘルス・ワーカー(SMAG)の歌(歌詞)

私たちは、あなたの村にいるSMAGです。
妊産婦の健康の改善のために推進していきます。
妊婦さん、お母さん、子ども、地域の健康を
みんなで守っていきましょう。
これまで村ではみな 自宅にて出産していました。
でも今は変わってきています。
保健施設に来て出産する妊婦さんが増えてきました。
妊娠中に出血、発熱、むくみなど、
危険な症状が見られたら、私たちにすぐに知らせて下さい。
一緒に保健施設へ行きましょう。
私たちSMAGは、より安全な妊娠や出産を推進するため、
妊産婦の健康改善に向けて
コミュニティを変えていくサポートをしています。
そして、妊娠中に危険な症状について知らせ、
産前健診や施設での出産の重要性、
男性参加の重要性についても、
コミュニティの人々に働きかけていきます。

■ 地域での啓発教育活動



▲ SMAGの歌がソーシャルクリエイティブディレクターの山田エイジ氏の協力のもと、作られました

■ マタニティハウス/保健施設利用者增加の推進

啓発教育活動の普及に伴い、2011年8月に開所したマタニティハウス(保健施設に隣接した出産を待つことができる施設)を利用する妊婦さんが年々増加しています。2011年には71人、2012年には287人が利用しました。保健施設での出産は、2010年が290件、2011年は364件、2012年は424件に増加しました。

マタニティハウスに宿泊する妊婦さんたち ▶



アフガニスタン

Islamic Republic of Afghanistan

2012年、ベスード県ジャララバード市の母子保健クリニックを拠点とし、周辺の農村地域を中心に助産師の資格を持つヘルス・スタッフが農村を巡回訪問し、延べ1万人の女性に母子保健に関する啓発教育を実施、また、妊産婦と女性、子どもたち延べ2万2000人に対し、保健医療サービスおよび産前産後ケア 施設分娩 避妊薬(具)の提供などの支援活動を行いました。本プロジェクトでは女児を中心として、学童への支援も行っています。保健推進員として育成した150人の小学校教師を通じて、ベスード県、シェフ県の児童1万2000人に保健衛生、感染症予防などに関する保健教育を行いました。さらに、2012年は1万6722個のランドセルが「想い出のランドセルギフト」として贈られました。

妊産婦と女性を守る保健推進プロジェクト

目的 | 母子保健に関する情報とサービスをより多くの妊産婦と女性に届け、安心して出産できる環境づくりの推進

実施地域 | ナンガハール州ベスード県および周辺地域

実施期間 | 2012年1月～12月／対象人口 | 約3万7000人／現地協力団体 | アフガン医療連合センター

アフガニスタンでは、妊娠・出産が原因で亡くなる女性の割合が日本の90倍もあります

■ 母子保健クリニックでの保健医療サービスの提供

▼ 母子保健クリニックでは、子どもたちへの予防接種も行いました



母子保健クリニックでは女性の医師を配置し、文化的な理由から男性医師の診察を受けることができない女性に、保健医療サービスを提供する態勢を整えています▶



■ 母子保健に関する啓発活動の実施

視覚教材も活用し、農村の女性たちに産前・産後健診の受診と▶
保健医療施設での出産を呼びかけました



想い出のランドセルギフト

■ 子どもたちへの保健教育指導

日本の子どもたちの6年間の想い出が詰まったランドセルが、海を越え現地の子どもたち、とりわけ教育の機会に恵まれないアフガニスタンの女の子の就学に役立てられています。

宗教的・文化的な背景もあって、女の子が小学校教育を受けることのできる割合は男子の7割弱程度にとどまっているのが現状です。農村部においては、家の手伝いや早い結婚を理由に多くの女子が中途退学しています。教育の機会を得ることなく、さらに身体が十分に発達しないまま妊娠・出産を経験するということは、彼女たち自身の健康のみならず、生まれてくる赤ちゃんの安全をも脅かす結果を招きます。命を救う第一歩は、女の子に教育の機会を作り出すことがあります。

ランドセルを男女平等に配ることで、「女の子も男の子と同じように学校へ通う」という考えが地域で根づくことを目指しています。また配付の機会を利用し、教師から子どもたちに保健衛生や病気の予防に関する知識を伝えました。





♪ アフガニスタンから ♪

私はバハール・アバド小学校4年生のシュクリアです。勉強が大好きです！私が住む地域もアフガニスタンという国の一
部です。人々の生活を破壊してしまう戦
争を決して起こさないようにして欲しい

と思います。今、小学校では病気にかからず健康にすごすための知識や、環境を守るために情報を得ることができます。ランドセルの支援は、日本のみなさんからのご厚意によるご支援だと知りました。素敵なお贈り物をしてくださってありがとうございます！！贈呈の時にわざわざお越しいただいた先生や先生たちに感謝しています。



日本の皆さまから贈られたラ
ンドセルは横浜の倉庫で、た
くさんのボランティアさんの
手で検品されます



横浜の港を春に出て、パキスタンに
到着。その後陸路を経てアフガニス
タンへ。ランドセルに均等に学用品
が配られるよう現地スタッフが詰め
替えます。
トラックで村々へ。子どもたちに配付
されるのは冬の初めころです

6年間背負ったランドセルは、家族にとってとても大切なものです。輸送経費等の寄附にはコメントがたくさん寄せられています。
2013年度は春と秋の2回ランドセルを集めています(海外輸送経費寄附として1個につき1800円かかります)。

春季キャンペーン：2013年2月20日～4月15日 **秋季キャンペーン：**2013年9月2日～10月15日

リサイクルによる支援

リサイクル衣料、子ども靴、赤ちゃん肌着寄贈支援

実施国 | ザンビア、シェラレオネ、アフガニスタン / 実施期間 | 2012年4月～2013年3月

現地協力団体 | ザンビア家族計画協会(IPPFザンビア/PPAZ)、シェラレオネ家族計画協会(IPPFシェラレオネ/PPASL)、アフガニスタン家族計画協会(IPPFアフガニスタン/AFGA)
協力 | 株式会社ファーストリテイリング(ユニクロ)、株式会社そごう・西武、株式会社赤ちゃん本舗



ユニクロリサイクル衣料:101万4000着寄贈
そごう・西武リサイクル子ども靴:3万8235足(ザンビア向け)
赤ちゃん本舗リサイクル肌着:3万6970点(ザンビア向け)

寄贈品は、保健医療施設での妊産婦健診や村の集会所での巡回健診に参加した女性たち、また啓発教育活動に参加した地域住民に配付し、母子保健に関する意識と知識の向上に役立てられました。

再生自転車海外譲与 実施国 | カンボジア、ザンビア、タンザニア、ガーナ、ベナン等

協力 | 公益財団法人JKA(競輪)、再生自転車海外譲与自治体連絡会(ムコーバ)
日本郵船グループ、株式会社ロッテ

日本の放置自転車をきれいに整備しなおし、村々で活動しているコミュニティ・ヘルス・ワーカーに寄贈しました。遠い距離を効率よく移動でき、家庭訪問や保健の啓発活動を行いました。

平成24年度の公益財団法人JKA(競輪)の補助を受け、以下の事業を実施しました。

事業名 | 平成24年度国際交流の推進活動補助事業(平成25年3月31日完了)

事業内容 | 再生自転車の海外譲与、現地モニタリング(タンザニア)、ガーナからの人材招聘交流
補助金額 | 9,192,265円



再生自転車ワークショップ(カンボジア)

日本から5名の技術者を派遣し、IPPFカンボジアのボランティア22人に再生自転車の組み立てとメンテナンスの技術について指導しました(ムコーバからの委託事業)

開発コミュニケーション

一人ひとりが自分たちの健康の大切さに気付くための、地域に合った効果的な広報・教育メディアの開発や啓発活動を行っています。ジョイセフは開発コミュニケーション手法や教材ツールの開発およびその技術移転に力を入れています。

東ティモールでは

事業名 | 男性参加促進のためのミュニケーション強化事業

資金ソース | 国連人口基金東ティモール事務所・世界銀行本部

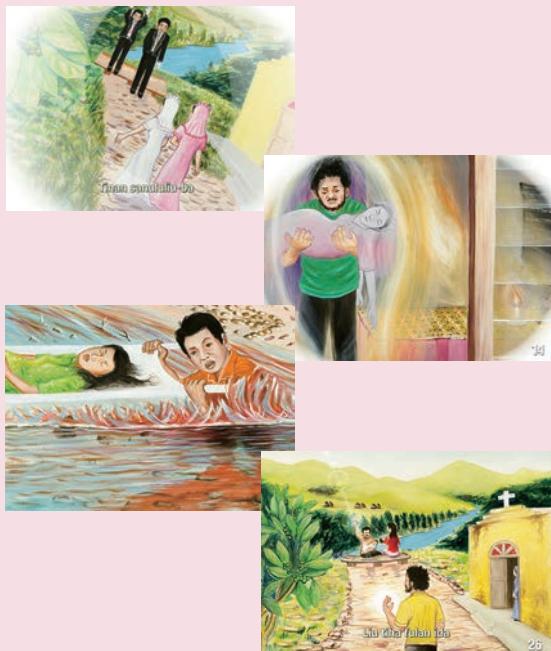
実施地域 | 合計5県（オイクジ県、ボボナロ県、コバリマ県、エルメラ県、パウカウ県）

実施期間 | 2012年3月～2013年2月（UNFPA）・2012年1月～2012年12月（世銀）

対象人口 | 全国100万人／現地協力団体／東ティモール保健省

妊産婦死亡を防ぐために、実話に基づいた、紙芝居、および同じ内容のDVDを制作しました。この教材は妊産婦死亡を減らすために男性が大きな役割を持つことを男性が地域の中で広めていくために開発されたものです。

完成した教材の使い方の研修を行い、男性参加促進ボランティアにより、実施地域の5県で活用されました、同時にこれらの教材紹介のポスターとパンフレットなどを制作して配布。さらに、教材の有効性と妥当性を調べるため、検証調査を実施しました。



「おはよう、アントニオ！」

10年前、親友同士だったアントニオとカルロスは隣り村の双子の姉妹、アンジェリーナとカンタリーナと村の教会で結婚式を挙げました。アントニオとカルロスはお互いによく助け合い、よく一緒に働いていました。

しかし数年後、セメントの家の建替えを計画し始めたアントニオは、金もうけのために賭けトランプや鬪鶏に夢中になり、家を空けるようになってゆきました。そんなある日、臨月を迎えたアントニオの妻アンジェリーナは、お腹が突然痛み、大量出血しました。慌ててアントニオが帰宅しましたが、すでに手遅れでアンジェリーナは亡くなっていました。

この日から、アントニオは酒におぼれて荒れはじめ、カルロスのことも避けはじめたのです。

カルロスの妻、カンタリーナも臨月を迎えたある日、陣痛が始まりました。カルロスはアンジェリーナのことを思い出し、すぐに病院に連れていくことにしました。町の病院までの道は川が氾濫して、道が濁流に飲み込まれています。カルロスは強い流れに足がとられ、川の中に引きずり込まれそうになりました。その時です！誰かに助けられました。アントニオでした。

カンタリーナが町の病院で無事に出産してから1ヶ月、教会で子どもたちの幼児洗礼の日です。なんと生まれてきた子は双子でした。カルロスとカンタリーナが愛おしそうに子どもたちを抱いています。

彼らの後ろから声がしました！アントニオが笑顔で立っているではありませんか。
—「おはよう！アントニオ」

ミャンマーでは

事業名 | リプロダクティブ・ヘルス推進のための行動変容コミュニケーション強化プロジェクト

資金ソース | 国連人口基金ミャンマー事務所／実施地域 | 合計16のタウンシップ

実施期間 | 2009年7月～2013年6月／対象人口 | 推定320万人

現地協力団体 | ミャンマー保健省・保健局 健康教育推進本部（CHEB）および公衆衛生部 母子保健課

ミャンマー保健省の健康教育推進本部の技術者に対する教材を制作するための技術移転トレーニングを現地で行い、台本の書き方、機材の使い方、撮影の方法などを3週間かけてオンジョブ形式で実施しました。

トレーニング終了後には、研修を受けた技術者が3つのテーマ：①妊娠中のケア（栄養と健診の勧め）、②安全な出産の確保、③出産時の緊急搬送で、テレビとラジオスポット、およびピクチャーカードを作成しました。



研修事業

2012年、ジョイセフはリプロダクティブ・ヘルス/ライツの向上を目的にアジア・大洋州、アフリカ、中南米の中央政府、地方政府、専門機関、国連・国際機関、民間公益団体の行政官、政策決定者、研究者、現場での事業推進者等を対象に5つの研修コースを実施しました。思春期保健、開発コミュニケーション、妊産婦の健康改善、リプロダクティブ・ヘルス/ライツと高齢化社会などのテーマのもと、延べ31の国と地域より61名を対象に研修事業を行いました。そのほか、個別研修を15件(157名)実施しました。

また、ジョイセフは国内の関係者(学校・中学校・高校・大学、研究機関、国際機関、市民団体)へのリプロダクティブ・ヘルス/ライツの理解向上のため、講師派遣等を行いました。



▲【国際理解授業】中学生を対象とした参加型ワークショップ

2012年度は国内外の1952名を対象に講義・講演会、ワークショップを実施しました。



アフリカ地域のすこやかな妊娠と出産ワークショップ

妊産婦の継続的ケアの強化に必要な「保健システムの強化」を保健推進員制度の発祥の地・長野県から学びました。特に住民により近い保健施設と住民をつなぐ地域組織の強化、支援体制づくりについて、須坂市保健補導員会のメンバーと討議を重ね、アフリカ各国のコミュニティ・ヘルス・ワーカーの強化に向けた実践計画づくりをワークショップ形式で行いました。

対象地域:ガーナ、リベリア、マラウイ、ナイジェリア、ザンビア、ジンバブエより11名(政府/NGOの母子保健実施者)

思春期保健ワークショップ

思春期リプロダクティブ・ヘルスの改善を目的とした若者の視点に立った情報とサービスの提供について考察しました。クリニック活動、また、発達年齢に応じたアプローチやスキルを学びました。栃木県では地域のネットワーキングによる「環境づくり」を中心に視察研修しました。

対象国地域:バングラデシュ、中国、インドネシア、キリバス、リベリア、タンザニア、ツバル、南アフリカ共和国、ウガンダより13名(政府/NGO思春期保健関係者)



開発コミュニケーション戦略構築コース

開発途上国における人々の健康改善、主に母子保健、思春期のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの改善を目的とした開発コミュニケーション(C4D=Communication for Development)にかかる、戦略構築、メッセージ作りを学び、それらを用いたツール制作の実践をグループワーク形式で行いました。

対象国:インド、インドネシア、ラオス、ミクロネシア、ミャンマー、ソロモン諸島、東ティモール、スリランカの8カ国より12名(政府/NGO/国連・国際機関のプログラム実施者)

妊産婦の健康改善(MDG5)ワークショップ

MDG5(妊産婦の健康改善)の達成を目指して妊産婦の健診、思春期の望まない妊娠、家族計画の課題に取り組み、地域と行政が一体となり母子保健を推進するモデル県・和歌山県からの学びを基にコミュニティにおけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの普遍的アクセスの達成を目指した活動計画を立案しました。

対象国:アルメニア、カンボジア、インドネシア、ラオス、レソト、ナミビア、フィリピン、スワジランドより13名(政府/NGOの母子保健実施者)

少子高齢化社会における国際家族計画連盟(IPPF)加盟協会の役割を考えるワークショップ

高齢化社会における女性の生涯健康に関する、日本の現状や取り組み等を検証しつつ、東南アジア諸国との少子高齢化社会におけるIPPF加盟協会の役割および今後の取り組みを検討しました。

対象国(地域):中国、香港、マレーシア、インドネシア、タイ、韓国のIPPF加盟協会理事および事務局長10名ならびにIPPF東・東南アジア太平洋地域局長含む2名が参加

ジョイセフの考え方

人間中心の視点

わたしたちは、人口問題とは数の問題だけでなく、人間一人ひとりの問題であると考えます。

住民が主体

わたしたちは、住民が自らの健康に関するニーズに気づき、健康を向上させるための活動の主体となるよう支えていきます。

ジェンダーの平等

わたしたちは、ジェンダーにおける平等が、リプロダクティブ・ヘルス推進にとって欠かせないと考えます。

NGOとしての独自性

わたしたちは、世界のリプロダクティブ・ヘルス推進の使命をもったNGOとして、独自性を保って行動します。



NGOとしてのチャレンジ

わたしたちは、常に、変化する社会や
住民一人ひとりのニーズに応えるために、考え、行動します。

パートナーシップ

わたしたちは、市民社会、そして政府、国連・国際機関、専門研究
機関などと協力しながら、よりよい社会づくりを目指します。

地球規模的な視野

わたしたちは、国際人口開発会議の行動計画(ICPD・PoA)を
推進します。

国際的に合意されたミレニアム開発目標(MDGs)は、
ICPD・PoAの実践なくしては達成できません。



被災地支援

ファースト・バースデー・ギフト & クリスマスギフトプロジェクト

First Birthday Gift & Christmas Gift Project

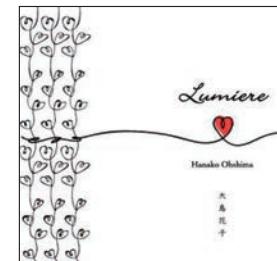
実施地域 | 福島県 宮城県 岩手県 (一部その他地域)

対象人口 | 2011年ケショ(義援金)支給者 1749名

活動目的 | 震災から一年が経過、復興格差や被災母子の避難先での孤立などが社会問題化する中、被災した母親たちの1年のがんばりを称賛し、孤独感の改善、自尊感情の改善・強化を目指しました。

ジョイセフが2011年度ケショ(義援金)を支給した被災ママに対し、2011年に出産したお子様が1歳になるタイミングをとらえ、ママの1年間のがんばりを称えるメッセージ&ギフトを贈りました。

- * 途上国ママからの温かい応援メッセージの書かれたカード
- * 新米ママの最初の一年の悩みや喜びを綴った絵本『ママ』
- * 大島花子さんが被災ママのために書き下ろした音楽CD「ルミエール」
- * お絵かきセット、バースデーお祝いセット



「覚えていてくれたことがうれしい」「思わず涙…」「いつか私も誰かを支えていきたい」等、たくさんの熱いメッセージが寄せられました。



「ファースト・バースデー・ギフト」発送作業は、一般的ボランティア、株式会社資生堂・株式会社セールスフォース・ドットコム社員ボランティアに参加協力ををしていただきました。



12月には、株式会社セールスフォース・ドットコムのご協力によりクリスマスギフト梱包ボランティアイベントを実施。

マーク・ベニオフCEO、トヨタ自動車の豊田章男社長、コリン・パウエル元米国国務長官なども梱包作業に参加。たくさんのボランティアの協力を得て、ケショ受給者の方へプレゼントを発送しました。セールスフォースからは同時企画として、開催時間中、1ツイート1000円の寄附をいただきました。

- * メッセージカード
- * キリンのソフィー
- * チャリティーピンキーリング本
- * 絵本『わたしにふれてください』

作:フィリス・K・デイヴィス 訳:三砂 ちづる
絵:葉祥明 発行:株式会社 大和出版



ツイッター募金で寄せられたメッセージを
カードにして後日送りました



リフレッシュ・ママクラス プロジェクト

Refresh Mama Class Project

実施地域 | 被災3県(2012年度は福島県、2013年度は宮城県、岩手県でも実施予定)

対象人口 | 500名程度(2013年度末まで)

協力団体 | 各市町村母子保健課/子ども家庭支援課等

活動目的 | 東日本大震災とその後の環境などによってパワーレスに陥った子育て期の母親の「生きる力」「育てる力」を取り戻し、地域の子育て力を向上することを目的としています。



被災とそれに伴うさまざまな喪失体験は、自己効力感(自信)や自尊感情(自分を大切に思う気持ち)を大きく傷つけると言われます。そこでピア・エデュケーションの第一人者である高村寿子自治医科大学名誉教授と自治医科大学公衆衛生学部門、公益社団法人母子保健推進会議および市町村の母子保健課と連携し、心的支援プログラム「リフレッシュ・ママクラス」を被災地の市町村で実施しています。2012年度は福島県下15市町村のママを対象に計28回のクラスを実施。本音で語り合い、互いに支えあう生き方を学ぶことでたくさんの笑顔が生まれました。2013年度は他の被災県での展開および保健師を対象としたファシリテーター養成研修を予定。



リフレッシュ・ママクラスは、グループエンカウンターとピア・カウンセリングを組み合わせた、ママのための心的支援プログラムです。母親、妻、嫁といった“役割”や“体面”をいったん離れ、本音で語り合うエクササイズとシェアリングを通して、ひとりの人間として自分の内面を見つめ、仲間と思いを共有し理解しあうことで、自分自身を愛し、自分の秘めた力を発見し、仲間と支えあいながら、もう一度未来に向かって歩みだす力を取り戻すことを目指しています。



*グループエンカウンター(構成的)：「心と心のふれあい」「本音と本音の関わり合い」と言われる、自己発見とリレーションづくりのための心的教育メソッド。カウンセリング心理学に行動理論や認知理論などを取り入れた、“育てるカウンセリング”と言えるものです。無力感、喪失感、自己否定的感情から脱し、自己効力感、自尊感情を回復することが期待できます。

アドボカシー(政策提言)

リプロダクティブ・ヘルスに関する国際会議に参加

■ 4月 IMF/世銀春季総会

4月17日～22日に米国のワシントンD.C.の世界銀行本部で開催されたIMF/世銀総会に参加し、2012年秋の総会に向けて、関係者との情報・意見交換とCSO(市民社会団体)間のネットワークの強化を図りました。

■ 第45回国連人口開発委員会(CPD)

4月23日～27日に、ニューヨーク国連本部で「思春期の若者と青少年」をテーマに第45回国連人口開発委員会が開催されました。ジョイセフは、国際家族計画連盟(IPPF)、国連人口基金(UNFPA)、市民団体からの参加者と共に、思春期の若者と青少年のリプロダクティブ・ヘルス/ライツを守り、推進するために、各国政府代表団への働きかけを行いました。

■ 5月 Beyond 2014 NGO会合

5月2日～4日に、マレーシアのクアラルンプールで行われたBeyond 2014 NGO会合に参加し、合意から20年を迎える「国際人口開発会議行動計画」の実現に向けて国連機関、政府機関、NGOと今後の対応について協議すると共に、情報共有のためのネットワークを構築しました。具体的には、気候変動をはじめとする環境問題、食糧問題、貧困問題、人権問題等をテーマに活発な議論が行われました。

■ 6月 パシフィック・ヘルス・サミット

6月12日～14日に、英国のロンドンで開催されたパシフィック・ヘルス・サミットに参加し、グローバルな研究者・企業・フィランソロピストたちとのネットワークを通じ、今後の資金・事業拡大に向けての可能性を探りました。

■ 11月 アジア・パシフィック・アライアンス・メンバー会合

11月14日～17日にタイのチェンマイで開催された、アジア・パシフィック・アライアンスのメンバー会合に議長として出席し、ポストMDGsの枠組形成における人口問題とリプロダクティブ・ヘルス/ライツの主流化に関する議論に対する提言をしました。

■ 11月 国際家族計画連盟(IPPF)60周年記念式典

11月29日、南アフリカ共和国のヨハネスブルクで開催されたIPPF60周年記念式典に参加し、南野知恵子元参議院議員から、リプロダクティブヘルス・ライツおよび母子保健に関する日本の経験についての報告を得ました。

国際シンポジウムの開催：IMF/世銀年次総会、東京で開催

2012年10月、48年ぶりに東京でIMF/世銀の年次総会が開催されました。ジョイセフは市民社会政策フォーラムにおいて、国内外の国際協力NGOとの共催により、「保健への投資：誰のために？」および「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ：定義・目的・達成手段」と題してシンポジウムを行い、IMF/世銀や各国財務省を中心に経済成長が重視される風潮があるなかで国際保健分野の重要性を訴えました。

ワークショップの開催：ジョイセフにて

2013年3月11日～14日に、IPPF、一般社団法人日本家族計画協会との共催で「少子高齢化社会におけるIPPF加盟協会の役割を考えるワークショップ」を開催し、アジアのIPPF加盟協会6カ国・地域からの参加を得ました。

ワークショップでは、ジョイセフのファシリテーションの下、高齢化社会における各参加団体の役割および高齢化社会がかかえる課題と機会への対応が協議され、今後も引き続き連携してこの課題に取り組んでいくこととなりました。

ジョイセフではメディアによる情報発信によっても支えられています。2012年度は朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、日本経済新聞、「VERY」、「25ans」、「MORE」、「AERA with Baby」、「ソトコト」、「赤ちゃんとママ」、NHK、フジテレビなど多くの紙媒体、オンライン媒体、テレビに取り上げられました。



VERY 2012年7月号



25ans 2012年1月号

WOWOW ザ・プライムショウ
2012年10月15日放送

Women's magazine in AOGAKU2013



読売新聞 2012年6月12日



ソトコト 2012年8月号、12月号、2013年1月号



産経新聞 2012年11月22日



FMラジオOJ-WAVEの番組「LOHAS TALK」で、10月1日から5日間連続でジョイセフの活動が紹介されました。

プレスツアー 9月20日～28日

IPPFと現地NGOネパール家族計画協会と協力して、新聞、雑誌社、テレビ局を対象にプレスツアーを実施しました。早婚、高い妊産婦死亡率、人身売買、貧困、差別などネパールの女性を取り巻く現状を行なうメディアに紹介し、ジョイセフや日本政府、IPPFの国際的な支援活動の取り組みを取材してもらいました。この時の模様は毎日新聞や日本経済新聞で大きく取り上げられました。



毎日新聞 2012年10月18日



日本経済新聞 2012年10月28日

富永愛ジョイセフ・アンバサダーの活動

アンバサダーとしての活動が2年目となる2012年度には、母の日にさまざまな社会貢献活動の実績を讃えられ、「ベスト・マザー賞」の文化部門を受賞。アンバサダーとしてさらに精力的にテレビ、ラジオ、ファッション誌、フリーペーパー等多くのメディアやイベントにて、途上国や被災地の女性、妊産婦の現状を訴え、支援を呼びかけました。

また、チャリティーピンキーリングを小指に付け、さまざまなテレビ番組や雑誌に出演し、若い女性たちへの「チャリティ」を喚起、ジョイセフの認知普及に貢献しました。



チャリティーピンキーリング

女の子の間で人気沸騰!

● 電通GAL LABO企画

『GIRL meets GIRL—日本の女の子と、世界の女の子。』

日本の女の子に、開発途上国や被災地の女の子のことを、もっと知ってもらえたなら。そんな想いが込もったデータ付き写真集を出版。

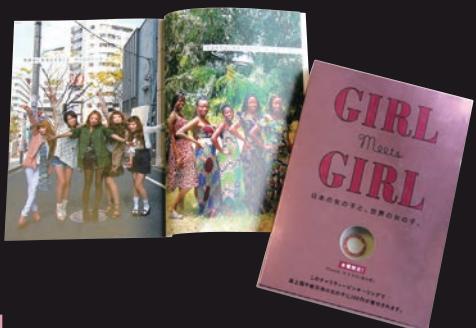
この本だけの限定、新色リングFriend(サイズS・約6号)がついている。

定価980円



●『小指の願いコンテスト』

審査委員長 富永愛アンバサダー を実施



秋に実施された3つのイベント「ママコレクション2012」、「グローバルフェスタ」、「国際ガールズデー記念GIRL meets GIRL写真展」にて



10月 MODE for Charity 2011による支援で完成した母子保健棟の視察を兼ねてタンザニア シニヤンガ州を訪れ、現地の状況を視察。帰国後はWOWOWプライムショーやフジテレ「知りたがり」などの富永愛アンバサダーが出演するレギュラーフォト番組で帰国報告をし、幅広い層にタンザニアの女性の現状を紹介し、支援を呼びかけました。

2年間で総計 6万4090個 (2012年度の単年で3万3236個)突破!

● 3つのオリジナルピンキーリング登場

「集英社 MORE」「エキサイト」「跡見学園女子大学」

● 8つの大学でCharity Pinky Ringブース登場!

秋の学園祭時にブース出展リクエストが多数あり、女子学生の間で急速に広がりました。

ブース出展大学: 学習院女子大学、獨協大学、フェリス女学院大学、宮崎公立大学、東京女子大学、東洋英和女学院大学、中央大学、成蹊大学

● 富永愛アンバサダープロデュース チャリティーピンキーリング クリスマス3種のリング(1個定価500円)が登場。

発売後2週間で3000個頒布(完売)に。



● チャリティーピンキーリング2周年記念 「10色セット」登場

A CTIVITIES : イベントカレンダー

2012年度 イベントカレンダー

たくさんのご協力ありがとうございました

4月

- メーデー@代々木公園
 - チラシ配布と展示
 - チャリティーピンキーリング
 - コーヒー
 - [主催:連合]
- Hot-MAMA ランチパーティー@ポーゲンポール広尾
 - ジョイセフ紹介
 - [主催:ヴィーナーナマカロン由香]

5月

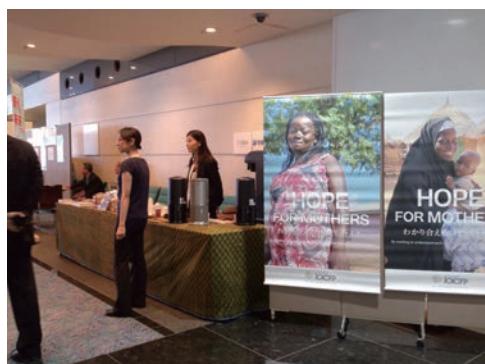
- ランドセル検品@横浜倉庫

たくさんのボランティアの皆さんと一緒に検品しました!ありがとうございました



7月, 1月
2013

- 7月 電機連合定期大会、1月 電機連合中央委員会@パシフィコ横浜
 - チラシ配布と展示
 - チャリティーピンキーリング
 - コーヒー
 - [主催:電機連合]



9月

- 第1回 Mom meets Mom -ママだからできること 千野志麻さん@Tokyo baby cafe
- ママカワコレクション@ヴィーナスフォート
 - ピンキーフォトコンテスト
 - チャリティーピンキーリング
 - [主催:ママカワプロジェクト]

10月

- 連合中央女性集会@ビッグサイト
 - チラシ配布と展示
 - [主催:連合]

- 第2回 Mom meets Mom -ママだからできること 大橋マキさん@Tokyo baby cafe
- グローバルフェスタ@日比谷公園
 - 活動紹介展示
 - チャリティーピンキーリング
 - フォトコンテスト
 - [主催:グローバルフェスタJAPAN2012実行委員会]



国際ガールズデー記念写真展@ JOL原宿店

- 電通GALLABOとのトーク
- チャリティーピンキーリングフォトコンテスト
- [主催:GIRL meets GIRLプロジェクト
(公益財団法人ジョイセフ、電通、ギャララボ共催)
協力:ジョル原宿]

● 2012 ミス・インターナショナル世界大会@沖縄

- ミス・ジョイセフ賞が新たに設けられ、ハイチのアネジーさんが受賞
- 石井代表理事トーク、各国ミス代表と質疑・懇談
- [主催:社団法人 国際文化協会]





2012年度受賞しました!

- ・カンボジア王国友好勲章
- ・公益社団法人日本助産師会感謝状
- ・ひまわり褒章 2012参加団体賞
- ・松村志保助産師顕彰会感謝状
- ・キッズデザイン賞 ファースト・バースデー・ギフト プロジェクト



11月

- チャリティー寄席@荏原文化センター
・ジョイセフの活動紹介と寄附 [主催:荏原法人会]
- 第3回 Mom meets Mom
ーママだからできること 堂珍敦子さん@Tokyo baby cafe
- 富永愛タンザニア帰国報告会@代官山鳳鳴館
- More Happy フェス@ヒカリエ
・チャリティーピンキーリング [主催:集英社]
- ジョイセフスポット1号店オープン!
@大阪市阿倍野区
・チャリティーピンキーリング
[主催:オリザ(レストラン)]

2013
2月



- Mom meets Mom in Osaka
ーママトーク 堂珍敦子さん×岸本尚美さん
@ジョイセフスポット オリザ
- 「with0311プロジェクト」ほんもののキレイで、東北に笑顔を
@資生堂大阪ビル
・トークゲスト:堂珍敦子さん
[主催:資生堂販売株式会社近畿支社、株式会社コクミン]

2013
3月

Women's Magazine in AOGAKU 2013 ●
@青山学院大学
[主催:集英社 / 共催:青山学院大学]



国際女性デーに願いを込めて、ランチ交流会＆写真展 ●
～IPPF(国際家族計画連盟)ガーナ事務局長を迎えて～
@丸の内 MC FOREST
[協力:三菱商事]

12月

- Salesforce Cloudforce Japan 2012
@ビッグサイト
～東北のママへクリスマスギフト～
・会場参加者とクリスマスギフト梱包作業
・Twitter支援。1ツイートで1000円の寄附!
[主催:セールスフォース・ドットコム]
- 三菱商事チャリティバザー@三菱商事ビル(丸の内)
・チャリティーピンキーリング [主催:三菱商事]
- Mom meets Mom クリスマススペシャル企画
【ジョイセフx mama loves JAPAN】
兵藤ゆきさん@Tokyo baby cafe



- 「国際女性デー」記念 映画うまれる上映会&チャリティトークセッション@南青山会館
・チャリティーピンキーリング
[主催:大葉ナナコ]

- 「3.8国際女性デー中央集会」
@よみうりホール、喫茶店
・チラシ配布と展示
[主催:連合]



- 想い出のランドセルギフト贈呈式
@横浜倉庫
ランドセルを直接、来日中のアフガン医療連合センターのババカルル氏に贈呈。
同氏により参加者に現地の状況を報告



SPECIAL THANKS : ご支援ありがとうございました

ご寄附をいただいた企業・団体・著名人紹介

2012年度、開発途上国支援・被災者支援のご寄附をいただいた一部の企業・団体・著名人の方をご紹介します。

主な支援内容

- * 寄附金による支援
- * 物販寄贈と海外輸送費経費による支援
- * 商品売上による寄附
- * 広告支援と寄附
- * 社員寄附と会社のマッチング寄附
- * コラボ商品による寄附
- * イベントで集まった寄附 等

写真は支援の一例

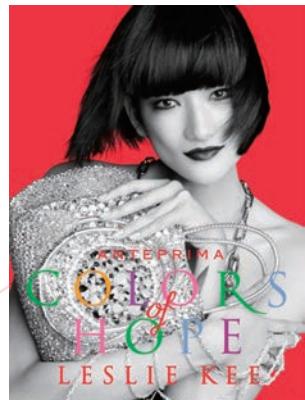
- 株式会社アンテプリマジャパン
- 株式会社赤ちゃん本舗
- 青木愛
- アスクル株式会社
- INSOU株式会社
- 株式会社伊藤園
- ウィズフィール京都山科管理組合
- ボートレース江戸川
- 一般社団法人荏原法人会
- エキサイト株式会社
- 株式会社オキサン
- 大島花子
- キューピー株式会社
- 株式会社クラレ
- 株式会社グッチグループジャパン
- グロッセジャパン株式会社
- 国際ソロブチミスト東京-銀座
- コカ・コーラウエスト株式会社
- 株式会社小堀
- ゴールドマン・サックス証券株式会社
- サラヤ株式会社
- 三和グループ社会貢献俱楽部
- 日本サービス・流通労働組合連合
- 静岡県立富士高等学校
- 株式会社集英社
- スターバックスコーヒージャパン株式会社
- 株式会社セールスフォース・ドットコム
- 全国共済農業協同組合連合会
- 株式会社そごう・西武
- ソニー株式会社
- 株式会社そごう・西武 西武渋谷店
- 胎内市チャリティーコンサート事務局
- 太陽生命グッドwil・サークル友の会
- 株式会社中日新聞社
- 株式会社ティニースプーン
- 株式会社デーメテール千疋屋
- 株式会社デファクトスタンダード
- 全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会
- 全国電力関連産業労働組合総連合
- 株式会社東京海上日動コミュニケーションズ
- ドイツ・マリエン薬局自然療法ショップ
- 長野県須坂市立相森中学校
- 株式会社ナチュラルサイエンス



◀ オリゴミルク /スマイルキッズ限定ボトルの収益の一部を寄附
[ナチュラルサイエンス]



▼ チャリティアイテムによる
売上的一部分を寄附
[そごう・西武]



▲ 写真集の売上的一部分を寄附
[アンテプリマジャパン]



◀ オリジナルピンキーリング More や
イベントでの収益を寄附 [集英社]



◀ キリンのソフィーの売上的一部分を寄附
[ティニースプーン]

ミュージアムの入場料にチャリティーピン
キーリング・シルバーをセット。
アーティストの作品のネットオークション利
益分を寄附
[ボートレース江戸川アートミュージアム]



▲ アフガニスタンに黒板とカーペットを寄附
[クラレ]



◀ 子どもたちが描いた絵をラッピングしたホワイトリボン自
販機が、伊藤園、コカコーラウエスト、ヤクルト、サンタ
リーの協力により設置され、売上的一部分が寄附

- 日本郵船グループ
- 株式会社ハースト婦人画報社
- ヴィリーナ ジャパン株式会社
- 株式会社ファーストリテイリング(ユニクロ)
- ペネッセ募金 復興支援助成金
- 公益財団法人ベルマーク教育助成財団
- 北海道武蔵女子短期大学 ボランティア委員会
- 株式会社ポン イマージュ
- 株式会社ポーラスター
- 株式会社マイナビ
- 三基商事・ミキグループ全国代理店
- 三菱商事株式会社
- 株式会社三菱東京UFJ銀行
- 株式会社三菱東京UFJ銀行社会貢献基金
- 三菱樹脂株式会社
- みんなで口笛
- 株式会社三井住友銀行ボランティア基金
- モナコ日本協会
- 山形県立山形東高等学校
- ヤフービジネスサービス
- 八千代カントリークラブ
- 株式会社吉運堂
- 一般社団法人ランガール
- 医療法人社団レニア会 きよせの森
- 株式会社ロッテ



▲ ラグジュアリー・レザー・ブランド「ロエベ」とスター・バックスのプレミアムラインのコーヒー豆「スター・バックス リザーブ®」のコラボレーションによる被災地支援プログラム



毎月、お店の売上の一部を寄附
[ヴィリーナ ジャパン]



▲ ランガール☆ナイト、マラソンイベントの参加費の一部を寄附 [ランガール]



▲ ロッテガーナチョコの裏面広告による広報協力と寄附 [ロッテ]



チャリティー寄席の入場料を全額寄附
[荏原法人会]

支援のお願い

開発途上国の妊産婦と女性を守る活動及び東日本大震災被災地支援にご賛同してくださる方は、ご協力をよろしくお願いします。また寄贈品はプロジェクトの活動と連携して活用されます。

*** 寄附** 開発途上国の女性を継続的に支援する月々定額募金「ジョイセフフレンズ」のほか、国内の支援者や企業・団体からのご寄附を受け付けています。

*** 寄贈品による支援** 開発途上国のニーズに応えて、ランドセル、学用品などの寄贈をお受けしています。寄贈品の輸送にあたって、海外輸送費のご協力もお願いしております。



*** 収集ボランティア** 使用済み切手や外国コイン、書き損じハガキなどを収集しています。集まった寄贈品は、日本および海外のコレクターや取扱業者を通じて換金されます。



*** チャリティ商品の購入** タンザニア・キリマンジャロのフェアトレードコーヒーをはじめ、ホワイトリボングッズなど様々なチャリティアイテムのご購入を通じた支援をお願いいたします。

*** その他の支援** 開発途上国でのプロジェクト活動に対する資金協力や、チャリティイベントの開催を通じたご寄附、またホワイトリボン自販機の設置のご協力をお願いしております。お気軽にご相談ください。(連絡先: 03-3268-5877 ジョイセフ支援事業グループ)



郵便振替、銀行振込のほか、ジョイセフのホームページでもご寄附をお受けしています。

開発途上国支援 | 口座番号: 00190-2-78370

郵便振替

加入者名:

この口座は振込手数料免除です。
窓口から青い用紙でお振込ください。

被災地支援

口座番号: 00130-7-28122

公益財団法人ジョイセフ

手数料免除はありません。

銀行振込

三井住友銀行 新宿通支店 (普)0922014 / 名義人: 公益財団法人ジョイセフ

ゆうちょ銀行 ○一九店(ゼロイチキュウ店) (当)0078370 / 受取人: コウエキザイダンホウジンジョイセフ

* ジョイセフへの寄附金は、税制上の優遇措置(個人:所得控除あるいは税額控除、法人:法人税法上損金算入ができる)が受けられます。詳しくはお問い合わせください。

FINANCIAL STATEMENTS AND AUDITORS REPORTS

: 2012年 決算書と監査報告書

貸借対照表

平成25年3月31日現在

公益財団法人 ジョイセフ

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	150,732,000	199,930,387	△ 49,198,387
未収金	42,830,446	27,981,925	14,848,521
仮払金	9,809,264	8,000,953	1,808,311
流動資産合計	203,371,710	235,913,265	△ 32,541,555
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	164,232,500	164,232,500	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	27,865,097	29,772,616	△ 1,907,519
特定資産合計	27,865,097	29,772,616	△ 1,907,519
(3) その他固定資産			
建物付属設備	2,052,508	1,951,633	100,875
什器備品	1,635,726	710,751	924,975
ソフトウェア	1,060,257	1,516,234	△ 455,977
電話加入権	648,000	648,000	0
敷金	6,080,000	6,080,000	0
その他固定資産合計	11,476,491	10,906,618	569,873
固定資産合計	203,574,088	204,911,734	△ 1,337,646
資産合計	406,945,798	440,824,999	△ 33,879,201
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	2,693,011	1,972,328	720,683
未払金	11,952,626	14,811,514	△ 2,858,888
前受金	97,797,701	131,180,856	△ 33,383,155
仮受金	18,000	0	18,000
貰与引当金	10,368,000	9,846,000	522,000
短期借入金	50,000,000	50,000,000	0
流動負債合計	172,829,338	207,810,698	△ 34,981,360
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	172,829,338	207,810,698	△ 34,981,360
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄附金	35,504,646	32,354,883	3,149,763
指定正味財産合計	35,504,646	32,354,883	3,149,763
2. 一般正味財産	198,611,814	200,659,418	△ 2,047,604
(うち基本財産への充当額)	(164,232,500)	(164,232,500)	(0)
正味財産合計	234,116,460	233,014,301	1,102,159
負債及び正味財産合計	406,945,798	440,824,999	△ 33,879,201

正味財産増減計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

公益財団法人 ジョイセフ

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常収益			
基本財産運用益	134,460	444,215	△ 309,755
事業収益	413,236,144	314,899,679	98,336,465
外務省委託事業収益	89,315,795	21,129,077	68,186,718
JICA委託事業収益	148,326,213	46,184,652	102,141,561
IPPF委託事業収益	75,236,538	86,558,000	△ 11,321,462
UNFPA委託事業収益	14,433,952	46,818,426	△ 32,384,474
関係機関委託事業収益	37,331,260	74,784,306	△ 37,453,046
協力支援収益	11,881,570	11,450,892	430,678
物品頒布事業収益	11,764,930	16,003,537	△ 4,238,607
事業協賛金収益	12,284,041	11,970,789	313,252
調査研究収益	12,661,845	0	12,661,845
受取寄附金	169,339,138	253,515,168	△ 84,176,030
一般寄附金	144,307,775	160,609,777	△ 16,302,002
指定正味財産受取寄附金振替額	25,031,363	92,905,391	△ 67,874,028
雑収益	5,773,264	6,311,767	△ 538,503
経常収益計	588,483,006	575,170,829	13,312,177
2. 経常費用			
事業費	539,138,559	613,942,997	△ 74,804,438
人件費	170,949,388	182,204,094	△ 11,254,706
運営費	36,609,293	36,867,446	△ 258,153
他勘定振替高	△ 71,178,417	△ 48,825,296	△ 22,353,121
外務省委託事業費	83,770,105	15,716,556	68,053,549
JICA委託事業費	57,788,261	26,670,104	31,118,157
IPPF委託事業費	75,236,538	58,020,574	17,215,964
UNFPA委託事業費	14,433,952	33,304,852	△ 18,870,900
関係機関委託事業費	45,806,052	62,380,472	△ 16,574,420
協力支援事業費	93,955,794	232,810,360	△ 138,854,566
物品頒布事業費	8,074,930	7,061,206	1,013,724
募金活動費	1,215,443	1,510,897	△ 295,454
調査研究費	2,420,065	9,000	2,411,065
広報活動費	8,803,066	0	8,803,066
事業推進費	11,254,089	6,212,732	5,041,357
管理費	47,019,769	91,496,594	△ 44,476,825
人件費	33,378,302	76,704,915	△ 43,326,613
事務局費	13,641,467	14,791,679	△ 1,150,212
経常費用計	586,158,328	705,439,591	△ 119,281,263
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却額	30,328	319,648	△ 289,320
雑損失	4,341,954	0	4,341,954
経常外費用計	4,372,282	319,648	4,052,634
当期経常外増減額	△ 4,372,282	△ 319,648	△ 4,052,634
当期一般正味財産増減額	△ 2,047,604	△ 130,588,410	128,540,806
一般正味財産期首残高	200,659,418	331,247,828	△ 130,588,410
一般正味財産期末残高	198,611,814	200,659,418	△ 2,047,604
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金	28,181,126	114,330,905	△ 86,149,779
一般正味財産への振替額	△ 25,031,363	△ 92,905,391	67,874,028
当期指定正味財産増減額	3,149,763	21,425,514	△ 18,275,751
指定正味財産期首残高	32,354,883	10,929,369	21,425,514
指定正味財産期末残高	35,504,646	32,354,883	3,149,763
III 正味財産期末残高	234,116,460	233,014,301	1,102,159

監事監査報告と独立監査人の監査報告書

平成25年5月7日
監事監査報告書

公益財団法人ジョイセフ
理事長 佐 泰男 殿

公益財団法人ジョイセフ
監事 植口教雄
監事 萩田昭二

私たち監事は平成25年5月7日(火)にジョイセフ会長室において、ジョイセフ鈴木良一常務理事・事務局長、高橋秀行業務執行理事及び白川弘二秘書・経理課長と植口教雄監事、萩田昭二監事の5人により、公益財団法人ジョイセフの平成24年4月1日から平成25年3月31日に係る事業報告書・計算書類及びその附属書類そして重要な決算書類を開示して、業務内容及び財産の状況を調査しました。この監査報告書は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(一般法人法)第99条(監事の権限)第1項「監事は、法務省令で定めるところにより、監査報告書を作成しなければならない。」に基づき作成しました。

監査結果

- 1 貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況および財政状況を正しく示しているものと認めます。
- 2 事業報告書は、法令及び定款に従い、当財團の運営状況を正しく示しているものと認めます。
- 3 理事の職務の執行に関する不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

当財団監事と公認会計士から
左掲の監査報告書を受けています。

独立監査人の監査報告書

平成25年4月23日

公益財団法人ジョイセフ
理事会・評議員会・監事 御中

鈴木康雄公認会計士事務所
公認会計士 鈴木康雄

<財務諸表監査>
私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人ジョイセフの平成24年4月1日から平成25年3月31までの平成24年度の貸借対照表及び損益計算書(公益認定等ガイドライン1-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。)並びにその附属明細書及び財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表(以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。)について監査を行った。

財務諸表等に対する理査者の責任
理査者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理査者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任
私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に開示する内部統制を検討する。また、監査には、理査者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理査者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見
私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益(正味財産増減)の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

財産目録に対する意見
私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人ジョイセフの平成25年3月31日現在の平成24年度の財産目録(『貸借対照表科目』、『金銭』及び『使用目的等』の欄に限る。以下同じ。)について監査を行った。

財産目録に対する理査者の責任
理査者の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任
私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見
私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係
公益財団法人ジョイセフと私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上



WHY 世界の動きとジョイセフ

公益財団法人ジョイセフは、人口および家族計画・母子保健を含むリプロダクティブ・ヘルス / ライツ分野の国際協力を実施する日本生まれの国際協力NGOです。1960年代以降、開発途上国では人口の急速な増加に対する取り組みが急務となりました。しかし、多くの開発援助機関が途上国政府と連携し導入した手法は、残念ながら、人権への配慮を欠いた、住民の意思に反した、人口抑制プログラムでした。1968年に設立されたジョイセフはそれに対して疑問をもち、1974年以来、常に社会的に弱い立場にある女性や地域住民を重視しつつ、戦後の日本の家族計画、母子保健、地域保健の経験をもとに地域に受け入れられるアプローチを世界に提唱し、一人ひとりの視点を尊重した草の根の運動を実践してきました。

その後の国際会議などで、同じ目標に向けて国際社会の合意が形成されていきました。ジョイセフのビジョン(目指すこと)や使命は、国際社会がのちに合意した目標ともつながりました。ジョイセフは世界179カ国が採択した1994年の国際人口開発会議(ICPD: International Conference on Population and Development)行動計画(PoA: Plan of Action)および世界189カ国が公約した2000年のミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals)の達成に向けて活動しています。



また、2015年のMDGsの達成期限以降に向けて、ジョイセフはグローバルなネットワークや国際フォーラムに参加し、新たな戦略を協議しています。こうした場を通して、ジョイセフはリプロダクティブ・ヘルス / ライツを含むユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(Universal Health Coverage:すべての人々が保健医療サービスを平等に受けられる仕組み)の重要性や新しい課題である生活習慣病を注視しつつ、現場のニーズや人々の声を国際社会や政策決定者につなぐ努力をしています。

国際人口開発会議(ICPD)行動計画(PoA)(1994年)

すべての人々が安心して性生活を営み、健康被害に直面することがないよう、一人ひとりの視点から性と生殖に関する「健康」を考え、自ら決定し、行動を起こすことができるよう働きかけ、また、家族やコミュニティによって支えられる社会を目指す。

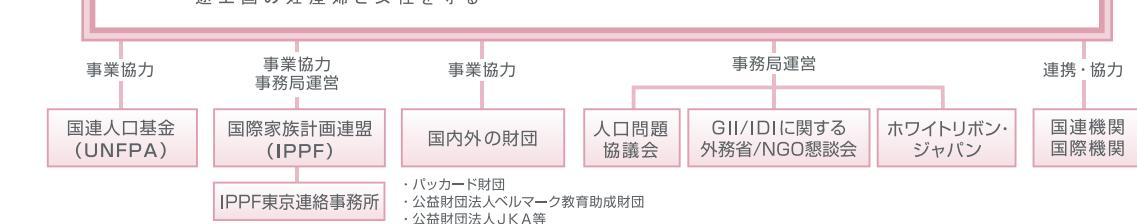
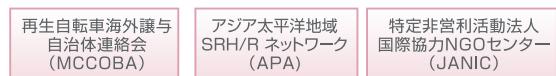
ミレニアム開発目標(MDGs)(2000年)

世界各国が取り組むミレニアム開発目標(MDGs)の達成を目指す一特に関連する目標5「妊娠婦の健康の改善」、および目標4「乳幼児の死亡の削減」、目標6「HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止」の改善を図る。



国内外の機関との連携

ジョイセフは、国連人口基金(UNFPA)、国際家族計画連盟(IPPF)を中心とする国連・国際機関や日本政府、また、国内の支援者との連携・協力のもとで、活動を展開しています。





組織図



GII/IDIに関する外務省/ NGO懇親会

1994年3月の第1回会合以来、本年度末まで合計108回の会合を通して、保健・教育・女性分野の国際協力に関して、外務省と参加NGO(43団体)が意見交換を行っています。

人口問題協議会

1973年発足。世界と日本の人口問題に関する調査研究と啓発・政策提言活動を行っています。

IPPF東京連絡事務所

世界152カ国の現地NGOを正式加盟協会として172カ国でリプロダクティブ・ヘルス/ライツ分野の活動を行っている世界最大級の民間国際機関、IPPF(国際家族計画連盟)の東京連絡事務所を務めています。

ホワイトリボン・ジャパン

世界中の女性が安全に妊娠・出産を迎える世界を目指して、1999年、国際支援活動「ホワイトリボン運動」がスタート。現在、世界155カ国の団体や個人が、ホワイトリボン・アライアンスのもとに活動しています。日本では関係7団体がネットワークしており、ジョイセフが日本事務局を務めています。



HOW 「つなぐ」役割をもつジョイセフ

ジョイセフの大きな役割は「つなぐ」ことにあります。地域にある潜在的な能力および可能性を引き出すため、また、途上国と国際社会および日本をつなぐために「触媒(Catalyst)」としての役割を果たしています。

開発途上国で 「つなぐ」

- 住民一人ひとりをつなぐ
- 住民と保健サービス提供者をつなぐ
- 住民と行政組織をつなぐ
- 住民の声を政策決定者につなぐ
- 保健セクターと他分野のセクターをつなぐ
- 官(行政)・学(学界)・民(民間組織)をつなぐ

開発途上国と 国際社会 および日本を 「つなぐ」

- 現場のニーズと国際保健政策・ODAをつなぐ
- 政策提言に向けて国内外のNGOをつなぐ
- 企業・団体、自治体、メディア、有識者、オピニオンリーダー、市民と途上国・被災者をつなぐ
- 国と国をつなぐ(南南協力など)





公益財団法人ジョイセフ 年次報告書 2012

2013年 6月 1日 発行

発行人:鈴木良一

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館

TEL 03-3268-5875 FAX 03-3235-7090

<http://www.joicfp.or.jp/>

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固くお断りします。